

うちで読もうよ～Stay Home! Read Books!～プロジェクト

コロナ禍における図書セットの貸出と
青少年のための電子図書館サービス

令和3年3月6日

広島県立図書館 総務課 友石 泰二

1 どのようなプロジェクトか？

スタート時の考え方

- ・コロナ禍による、学校の臨時休業等で、子供の在宅時間が増加。
→学校等に図書セットの貸出や電子図書館の導入を行うことで
在宅中の子供の本に親しむ機会を増やし、家庭での学びを支援。



その後の情勢を踏まえ軌道修正

- ・学校再開後も、子供たちは、ストレスや不安を抱えている。また、学習面では、様々な制約のもと、授業・家庭双方で効果的な取組が必要。
→学校再開後も、子供たちの心のケアや学びの支援に資する
図書の貸出や電子図書館の利活用を継続。

1-① 図書貸出事業 (R2.5.1～)

- 図書セット(1セット25冊)を、直接各施設に貸出し(送料図書館負担)
- 貸出冊数: 8セット(200冊)(10月から4セットを8セットに上限緩和)
- 貸出期間: 2か月
- 対象施設: 県内全ての学校(幼稚園含む), 保育所, 認定こども園, 放課後児童クラブ・放課後こども教室, 適応指導教室, フリースクール, 放課後デイサービス, こども食堂, ネウボラ, 子育て世代包括支援センター, オープンスペース, 子育て支援センター など子供たちが利用する施設
- 申込方法: メール・FAXで申請書を送るだけ(利用カード不要)

1-① 図書貸出事業 (R2.5.1～)

- 図書セットの内容

- 年齢・学校種等に応じた、絵本、読み物などのセット
(乳児向け、幼児・小学校低学年向け、小学校低学年向け、
小学校高学年向け、中・高校生向け)
- テーマ別にまとめられ、学習に活用できるセット
(環境、福祉、工作、昆虫などテーマは66種類)
- 子供の元気サポートセット
癒しや、悩みの解決、生き方のヒント等に関する本

1－② 電子図書館事業（R2.7.29～）

- ネットにつながる環境があれば、いつでもどこでも貸出料無料で電子書籍が読める。
- ターゲットは青少年に絞る（都道府県立では全国初）
- 貸出冊数は1度に2冊。
- 貸出期間2週間：返却は自動のため、延滞なし。
- 様々な特集を組んで、本を紹介。
- 蔵書数：青少年向けの書籍や古典文学作品を含む約7,500冊

2 なぜ、この事業を実施しようと考えたか？

- 「休校中も子供たちの学びを止めない！」が出发点
(図書貸出)既存の事業「互助・教弘文庫」を活用し、即応。
(電子図書館)発展途上のサービスだが、まずやってみる。
- 学校再開後の子供たちの心・学びの状況
心理面:「期限のない我慢」はボディブローのようにダメージ。
元気に見える子でも頑張りすぎているケースがある。
図書室は「しんどい子」の居場所でもある。
学習面:カリキュラムの大幅見直し、学習内容を短期間に圧縮、
行事の中止、体験・交流型の学習に制約

3 事業実施にあたり取り組んだこと

【選書の工夫】

- ・当館の選書基準は踏まえながらも、次の観点を重視。
 - ・本に親しみの薄かった子どもに興味を持ってもらいやすい本
 - ・癒やし、悩みや生き方のヒントとなる本
- ・特に電子図書館については、人に知られず本が借りられる特性を生かし、デリケートな悩みに係る踏み込んだ内容の本も揃えた。

3 事業実施にあたり取り組んだこと

【事業執行体制や，関係各所との連携】

- ・部署横断的な体制をとり，館内で一体的にプロジェクトを進行。
 - 2か月半で電子図書館の導入(選書・システム協議・契約・構築)を可能に。
ほぼ現有人員で既存業務と並行して新事業も廻す。
- ・学校教育系の部署とのパイプを強化。
- ・子供に関するあらゆるステークホルダーを巻き込む。

3 事業実施にあたり取り組んだこと

【広報活動】

- ・プレス対応
- ・OWNメディア（HP・Twitter）、県庁・学校インフラの活用
- ・学校訪問・体験会
- ・ニュースレターの発行
- ・県の包括的連携企業（ショッピングセンター・コンビニ等）へのチラシ配架
- ・各種会議・研修，子供の集まる場所へ出向いてPR
- ・関係者（校長・市町教委・各種団体・記者など）へ直電
- ・人気漫画に関連付けた企画 など

4 効果や反響

- 図書貸出事業：貸出数約1,200セット(3万冊)
- 電子図書館：貸出数約4,000冊 (いずれも2月20日現在)
- いずれの事業もアンケートでは高評価
- 図書貸出事業
 - 学校の読書活動の充実につながったり, これまで本との出会いが乏しかった施設に本が行き渡ったりした。
- 電子図書館事業
 - 若い世代へ周知・浸透させる難しさ
 - 心のケアに関する本, 隙間時間で読める短編等が人気。

5 今後について

- コロナ禍における子供の支援は引き続き必要。
小15%中24%高30%の子供にうつ症状 コロナの影響の可能性
(R2.11「コロナ×こども本部」国立成育医療研究センター調べ)
- 学校での図書の利用
 - セット貸し+オーダーメイドも必要。
- 非来館サービスの充実(紙・デジタルとも)
 - 市町立図書館と連携し、図書館をより身近に。
 - 電子図書館の今後。

御清聴ありがとうございました。